サイ・テクこらむ

知と技の発信

【308】

埼玉大学・理工学研究の現場

留学生受け入れ交流

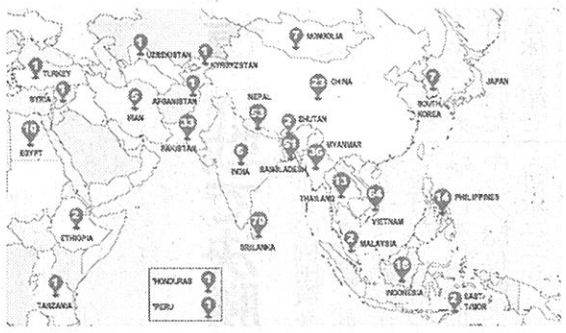
レジリエント社会研究センター長　睦好宏史　教授

むつよし　ひろし　53年生まれ。78年東京大学大学院修了。工学博士、技術士、土木学会特別上級技術者。96年埼玉大学工学部教授、12―14年埼玉大学副学長。大学院理工学研究科国際プログラム主査。専門は、建設材料、鉄筋コンクリート工学、橋梁工学、耐震工学等。

■国際プログラムとは？

埼玉大学大学院理工学研究科では、5分野（環境社会基盤、機械、数理電子情報、生命科学、物質科学）から成る「環境科学・社会基盤国際プログラム」が、設置されており、主にアジア地域から多くの留学生を受け入れて教育・研究を行っています。ここでは、歴史が最も古く、多くの留学生を受け入れてきた環境社会基盤国際コースの国際プログラムを紹介します。

海外から留学生が日本で勉強する場合、二つの大きな問題があります。一つは言葉の問題です。日本語の会話から読み書きを修得するには長い年月を必要とします。二つ目は、日本は物価が高いため、奨学金などの援助が必要です。



留学生の出身国（環境社会基盤国際コース）

本国際プログラムでは、教育・研究はすべて英語で行うことにしています。また、日本国政府（8名）、アジア開発銀行（12名）、世界銀行（約2名）による奨学金を毎年留学生に授与するとともに、日本国際協力機構（JICA）などによる奨学生（ミャンマー、ベトナム、アフリカ）を受け入れています。このことから、世界各国から毎年多くの優秀な留学生が本国際プログラムを志願しています。

■教育・研究分野

発展途上国が目指してきた社会基盤の整備は、国土の開発と発展を主眼にした学問・技術の習得に重点が置かれていましたが、今後は国土の開発と環境保全あるいは環境負荷低減をいかに考えていくかが重要な課題です。また近年、地震、ハリケーン、火山の噴火、河川の洪水などの自然災害が頻発し、甚大な人的・経済的損失をもたらしており、自然災害の減災あるいは早期の復旧（レジリエンス）が求められています。

本国際プログラムは、上記の問題を抱えている、主にアジアにおける発展途上国から優秀な留学生を受け入れて、教育・研究指導を英語により行っています。

■日本人学生の国際化

日本人大学院生も留学生と一緒に英語の講義を受けています。また、本プログラムと繋がりの強い大学（タイ＝タマサート大学、スリランカ＝モラトゥワ、ペラデニヤ、ルフナ各大学、ベトナム＝国立建設大学、バングラデシュ＝バングラデシュ工科大学、ミャンマー＝ヤンゴン工科大学、アメリカ＝ハワイ大学）と提携して教員と学生の交流を盛んに行っています。毎年、海外インターンシップと称して、日本人学生を上記の大学あるいは建設現場などに派遣しています。

本国際プログラムは1992年に設置され、これまでに約450名の留学生が修士、博士の学位を取得し、母国はもちろんアメリカやオーストラリアの大学教授になる者もおり、全世界で活躍しています。

埼玉経済

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください
TEL 048・795・9161　FAX 048・653・9040
✉keizai@saitama-np.co.jp